



かこ いけ あと お 囲 い 池 跡 Site of Okakoiike Pond

「秋山の淳さんが、いつも昼ごろになるとお囲い池に泳ぎにきている」

といううわさがつたわったとき、みなで見にゆこうということになった。虚子も水泳用の褌を締めてお囲い池に行った。

司馬遼太郎著『坂の上の雲』（文藝春秋刊）単行本：1巻より



挿絵第137回 画・下高原健二
Illustration No.137 Picture: Kenji Shimotakahara

伏流水豊かなこの地には池が掘られ、松山藩士の水練場として使われていた。ここがお囲い池と呼ばれるようになったのは明治20（1887）年頃からといわれる。

『坂の上の雲』では、海軍兵学校時代の秋山真之が帰省中にお囲い池で遊ぶ姿や、陸軍の兵隊とけんかをする場面が描かれている。



明治時代のお囲い池
Okakoiike Pond in the Meiji

This area has abundant underground water. A lake was dug here, and it was used by the feudal retainers of Matsuyama for swimming practice. The name Okakoiike Pond is said to have been used from around 1887.

In Ryotaro Shiba's novel *Saka no Ue no Kumo* (published by Bungei Shunju), Sane'yuki Akiyama is portrayed enjoying himself here on his vacation from the naval academy, and arguing with soldiers from the army.